

※施工前に必ず、本紙及び別紙の安全上のご注意をよくお読みの上、正しく施工して下さい。

- ・取付前にC D管を使用した電気工事が必要となります。外壁の工事の前にご依頼下さい。
- ・施工前に必ず点灯確認を行ってから施工し、施工後は必ず点灯確認をし引き渡しを行って下さい。



**本商品は12V仕様です。変圧器は付属しておりません。
100Vを直結されますとLED球が故障します。ご注意ください。**

本製品は水たまりができない（水はけのよい）場所に設置して下さい。
雨水等が入り込みますと、漏電の原因となります。
GL以下への埋め込みはおやめください。不具合の原因となります。

※施工業者様 施工が完了致しましたら、本書を施主様にお渡しください。

■ 施工上の注意事項



……禁止をあらわします

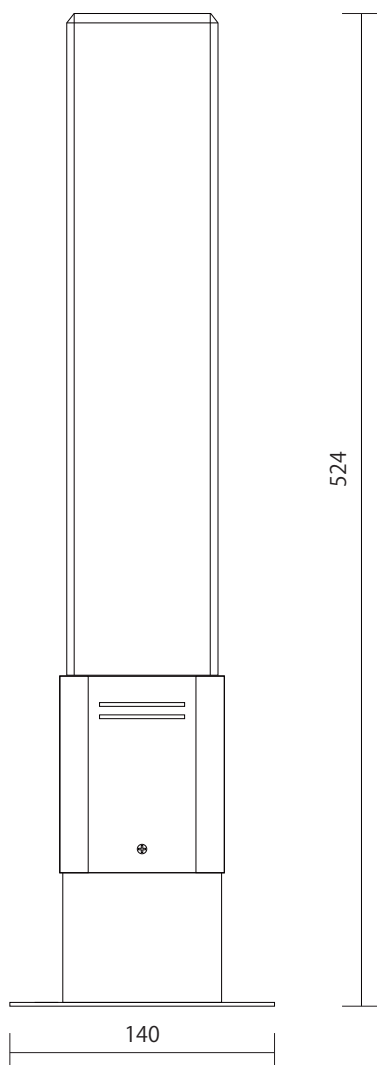


……必ず実行をあらわします

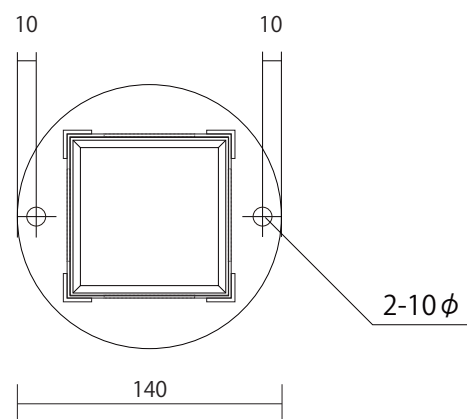
- ⚠ 結線部は必ず自己融着テープ等で巻いて防水・絶縁処理を行って下さい。
- ⚠ 他の器具とは並列でつないで下さい。（LED球／0.49W）
- ⚠ LED球は12Vに変圧してご使用下さい。
 - 過電圧を加えると火災の原因になります。
- ⚠ 本品は水たまりがない（水はけの良い）場所に設置して下さい。
 - 雨水などが入り込み、漏電の原因となります。
- ⚠ 調光器・ホタルスイッチと組み合わせて使用しないで下さい。
 - 故障の原因になります
- ⚠ 器具を改造したり仕様以外の部品交換は行わないで下さい。
 - 火災・感電により事故につながる恐れがあります。

〈寸法図〉

（正面図）



（平面図）



単位：mm

※寸法は約寸です

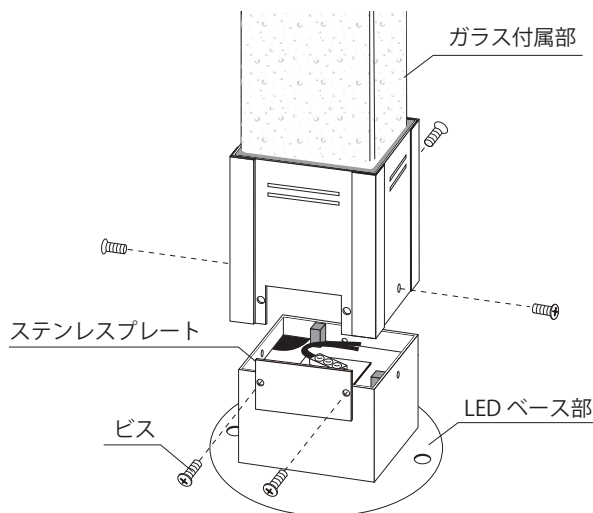
施工方法

- 1** ビス（5箇所）を外し、ガラス付属部とLEDベース部を外します。

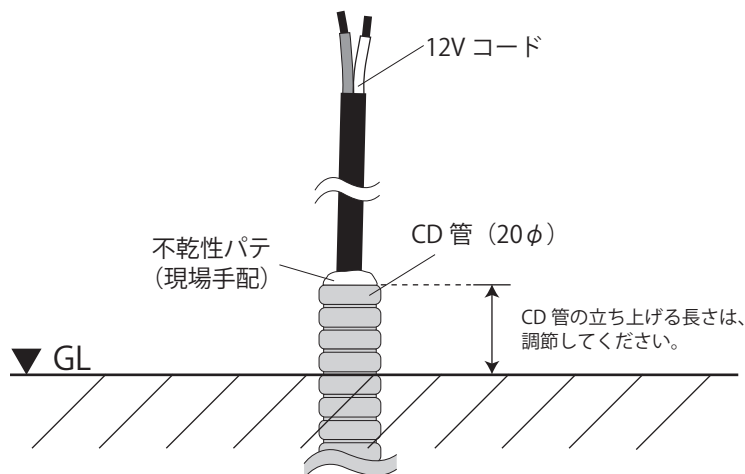
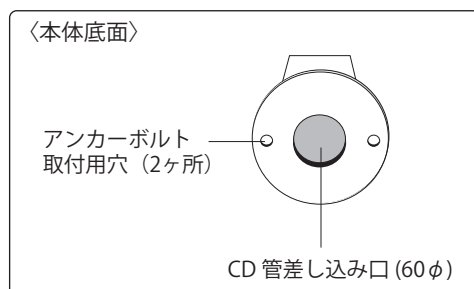
【設置の際のご注意】

※設置の際は、LED球交換の際のステンレスプレートが引き出せるよう、壁や障害物などから150mm以上間隔を設けて下さい。

※本体が揺れて危険ですので、ゴムやパッキンを下部に敷かないでください。



- 2** 取付場所にCD管を敷設します。
通線ワイヤー等を使用し、12Vコードを引き込んで下さい。
CD管口を不乾性パテで塞ぎます。
このとき、コードの長さに余裕を持たせて下さい。



- 3** LEDベース部を取付箇所に置き、取付穴に印をつけます。
アンカーボルトの下穴を開けて下さい。

- 4** 12Vケーブルと結線します。
LED球から出た線と12Vコードを接続し、
圧着スリーブなどでかしめてください。
圧着箇所に、自己融着テープ等を巻きつけ、
確実に防水・絶縁処理を行ってください。

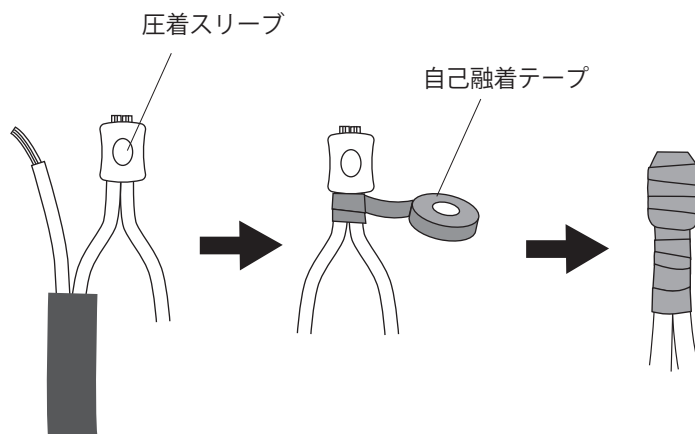
！ ご注意

※12V用の変圧器を使用してください。

100V直結しますとLED球が壊れます。

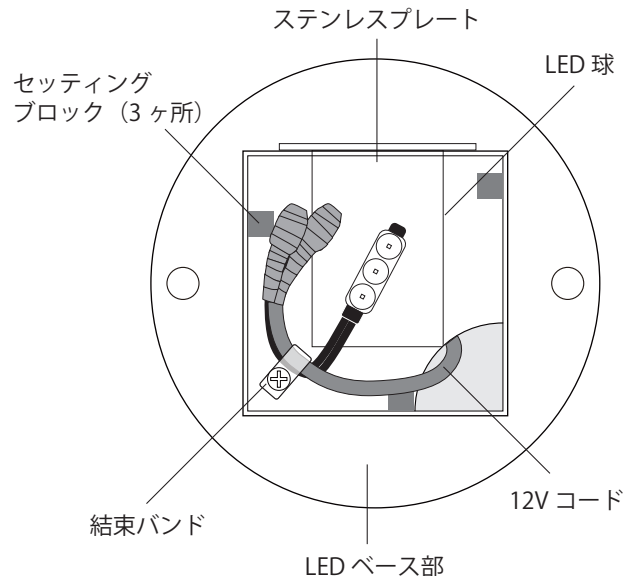
※LED球の配線には極性があります。

点灯しない場合は極性を逆にして結線して下さい。



- 5** 12V コードを結束バンドで固定し、結線部は LED ベース内に収めて下さい。LED 球の裏面に両面テープが貼ってありますので、剥離紙を剥がし、ステンレスプレートに貼り付けてください。

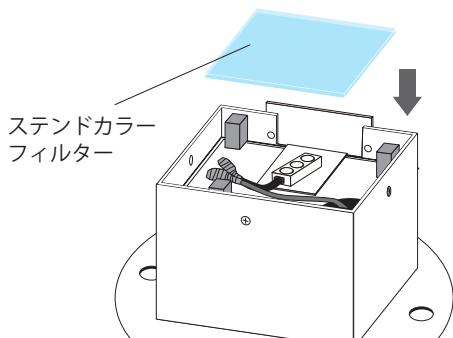
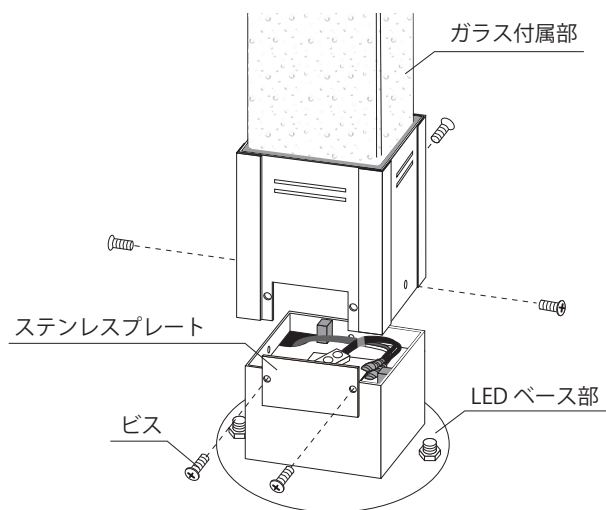
12V コードは LED 球交換時、ステンレスプレートを引き出せるよう、長めにして下さい。



- 6** LED ベース部をアンカーボルトで固定します。

- 7** ガラス付属部と LED ベース部をビスで取り付けます。

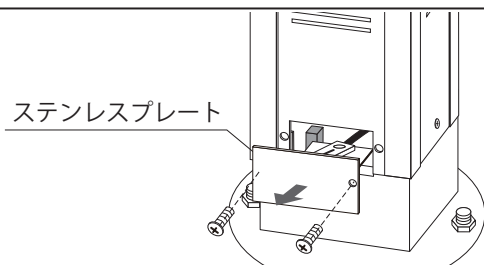
※本製品はスイッチ等の制御部材は付属しておりません。制御部材は別途ご用意いただき、点灯確認をお願い致します。



オプション スタンドカラーフィルター 取付方法

- (1) スタンドカラーフィルターを中央に置きます。
- (2) ガラス付属部とLEDベース部をビス（5ヶ所）で固定して下さい。

※スタンドカラーフィルターを破損しないよう御注意下さい。



◆LED球交換について◆

LEDベース側面のビスを外すと、LED球が交換できるよう、ステンレスプレートを引き出すことができます。ステンレスプレートを引き出し、結線部を切断してLED球を交換して下さい。

LED 球交換の際は
販売店までご連絡下さい

お手入れについて

本製品に使用しておりますステンレスは特に錆びにくい SUS304 を使用しておりますが、使用状況や、取付場所の環境によってもらい錆が発生する可能性があります。海岸沿い等の住環境での塩分、油脂、土埃中の鉄粉を含む雨水等がステンレス部に付着し、そのまま長時間放置されますと、もらい錆の原因となります。汚れが付着した場合は、中性洗剤でお手入れし、最後は必ずきれいな水で洗い流し、乾いたやわらかい布で拭いてください。こまめにお手入れすることで、サビの発生を防ぐことができます。

破棄について

ご不要になった商品は、各地域のルールに従って正しく処分してください。